

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

① 環境教育 (高校1年生 総合的な学習の時間 年間プログラム)

○校内の自然環境を利用した、生物多様性を意識した森づくり活動

- ・グループ毎に生物多様性を維持することを意識した樹木の選定と植樹

○校内の森林保全活動

- ・矢作川水系森林ボランティア協議会の指導によるヒノキ林の健康診断
- ・間伐体験 (今年度も予定していたが、雨天のため中止)
- ・NPO法人「土に還る木・森づくりの会」の指導による間伐材を利用したベンチ作成

○生物多様性と森林保全に関する講義・講演

- ・林業女子会静岡、三井物産環境・社会貢献部によるそれぞれの活動と関係する現状についての講演
- ・本校教員による本校の自然環境における生物多様性、および気候変動と森林の役割、森林保全に対する国連の取り組みについての講義

○「温暖化緩和策としての森林保全」を議題とした模擬国連の実施

- ・学年を23か国に分け、英文の国連資料などを利用し実施

② 国際理解教育 (ホームルーム活動・課外活動など)

○姉妹校への留学生の派遣

- ・昨年度カナダ・ハリファックスに派遣された高校3年生の生徒2名、スコットランド・キルグラストンに派遣された高校3年生の生徒1名が6月下旬に帰国、ニュージーランドに派遣された高校2年生の生徒が1月に帰国し復学した。派遣された生徒は、報告会で体験を全校生徒と共有し、また学校説明会等で自身の体験を英語で発表、学校外の方にも体験を伝えた
- ・9月からカナダに高校2年生の生徒1名、約1年間派遣
- ・3月にアメリカ合衆国・セントルイスの姉妹校に高校2年生の生徒2名、約1ヶ月の短期留学生を派遣

○オーストラリアからの留学生1名の受け入れ (2015年4月~2016年2月)

- ・高校1年生のクラスで受け入れ、学校だけでなく寄宿舎生活、ホームステイ (本校高校2年生の生徒の家庭がホームステイ先) においても多くの学年の生徒と交流した。また「留学生と話そう会」が開かれ、中1~高3までの生徒と定期的に関わる機会が設けられた。

○フィンランドからの留学生1名の受け入れ (2015年4月~2016年2月)

- ・高校2年生のクラスで受け入れ、学校だけでなく寄宿舎生活、ホームステイ (本校生徒の家庭がホームステイ先) においても多くの学年の生徒と交流した。また「留学生と話そう会」が開かれ、中1~高3までの生徒と定期的に関わる機会が設けられた。

○イタリアからの留学生の受け入れ (2015年9月~2016年7月)

- ・高校3年生のクラスで受け入れ、行事の際には寄宿舎に宿泊し、多くの生徒と関わりながら学校生活を送っている。また「留学生と話そう会」が開かれ、中1~高3までの生徒と定期的に関わる機会が設けられた。

- 台湾の姉妹校からの短期留学生の受け入れ（2016年1月末～2月中旬）
 - ・高校1年生のクラスで受け入れ、学校だけでなく寄宿舎生活とホームステイでも多くの学年の生徒と交流した。
- 海外体験学習の実施（高校生希望者を対象）
 - ・マルタでの語学研修プログラム（2016年3月実施。実施年度は2015年度。2016年度は実施せず）
 - ・韓国での体験学習の実施。隣国の歴史を学び、同じアジア・同じ聖心の姉妹校として交流を深め、国際性を養っていく。
 - ・姉妹校主催のカンボジア、フィリピン、台湾での文化交流プログラムへの参加
 - ・参加者は、事前学習を通してそれぞれの文化や歴史を学び、全校生徒への体験報告会や文化祭での展示発表を行って、体験を全校生徒と共有した。
- 総合的な学習の時間の活動などにおける海外の文化体験
 - ・中学2年生が、夏休みに2泊3日の「English Camp」に参加。
 - ・中学2年生が、ユニセフの講演を聴いた。テーマはアフリカの子どもの現状で、講演だけでなく、水をいっぱいに入れた水がめを運ぶ体験をするなど、アフリカの子供たちの日常の困難さを味わった。
- 模擬国連への取り組み
 - ・全日本高校模擬国連大会へ参加を目標に姉妹校での模擬国連大会などへ参加
 - ・第10回全日本高校模擬国連大会に、書類選考を通過して本大会へと参加することができた。担当国は、オーストラリアである。
- 国際的な視野を広げる
 - ・各国の聖心会のシスター方が来校。生徒たちに出身国、関係国に関してのレクチャーを行ってもらった。
韓国、フィリピン、アメリカ合衆国（ニューヨーク）、ケニア
 - ・フィリピン、ケニア、アメリカ合衆国のシスターには、実際に授業に参加してもらった。フィリピンのシスターには、生徒たちの英語でのプレゼンテーションを見てもらった。米国のシスターは国連本部で働いており、高3の生徒とジェンダーに関するディスカッションを行った。ケニアからのシスターには、高1の宗教の時間で、世界市民としてのあるべき姿を伝えてもらった。
 - ・3月、世界聖心同窓会のメンバーが不二聖心に来校予定。生徒たちとの交流の時間を設ける予定である。
- 姉妹校間での国際的な視野を広げる活動
 - ・11月20日には聖心女子大学で未来を生きる生徒たちのために聖心 Global Day が開催。本校も含め、姉妹校各校の取り組みがパネルで紹介された。中学生は“World and I”をテーマに英語のスピーチを全体の前で行い、高校生は Global Mind について、聖心女子大学のファシリテーターのもと、英語でパネルディスカッションを行った。
- グローバルな意識を涵養するチャリティ活動へ参加・協力
 - ・月に1回の「節約弁当」で集まったお金を難民・教育支援を主として活動している機関などに寄付した。「節約弁当」とは、お弁当のおかずをなくし、十分な食事ができない人々の思いを胸に100円を寄付する活動である。寄付先の活動内容や難民の生活状況などについての新聞を発行するなど、難民問題や教育支援の必要性について自発的に調査し、知識の共有を行った。

③ 平和・人権教育

○長崎への研修旅行とそれに関する準備（高校2年生 総合的な学習の時間）

- ・事前学習で長崎への原子爆弾投下や被爆の状況、長崎におけるキリスト教の信仰と迫害の歴史など、グループ学習とプレゼンテーションを行い、知識を共有した。
- ・現地での研修、被爆体験者の講演、教会での祈りや礼拝を通して、戦争について理解を深め、平和を維持する大切さを学んだ。

○広島への研修旅行とそれに関する準備（中学3年生）

- ・原爆・戦争の悲惨さを学び、実感するとともに、なぜ広島に原爆が投下されたのかも含めて平和について学び、戦争のない平和な世界のために何ができるかを考え、祈る機会とした。
- ・エキュメニズム（諸宗教との対話）の観点から、宮島を訪れ、日本人の信仰についての理解を深めた。

○女性やマイノリティの人権や現代社会の問題などを学ぶ講演や活動

（高校3年生 総合的な学習の時間）

- ・育児休暇取得や男女同姓の問題についてディベートを実施
- ・ジェンダーやマイノリティの人権について、大学の研究者の講演を聴く

○チャリティ活動への参加

- ・クリスマス行事で行われたチャリティセールで、その売り上げを寄付した。寄付先については、担当の委員がそれぞれ関わりたい国際問題や、それらに関わるNGOや国際機関の活動を紹介し、学年毎に決定した。クラス全員が手芸品や焼き菓子を作って販売し、また喫茶コーナーでフェアトレードのコーヒーや紅茶の提供も行った。
- ・熊本地震の復興支援のための募金活動を迅速に行い、送金した。
- ・東日本大震災の支援のため、焼き菓子を作って販売し、売り上げを寄付した。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（ ）